

7、8月の米国景気・雇用・物価動向

ポイント① 堅調な景気の下、物価は安定的

8月末から9月上旬に発表された米国の経済指標は、景気が依然堅調な一方、インフレの加速が収まりつつあることを示唆する内容でした。

8月30日発表の7月の個人消費支出デフレーターは前年同月比+2.3%、エネルギー、食料品を除いたコア・ベースで同+2.0%と、それぞれ6月より上昇率が0.1%高まりました。しかし、個人消費支出デフレーターは前月比では+0.1%と低めの伸びとなりました。また、9月4日発表の原材料、エネルギーなどの価格動向を示す米ISM（サプライマネジメント協会）製造業支払価格指数は、8月には3ヵ月連続で下落し、川上の物価上昇圧力の低下を示唆しています。製造業支払価格指数は、個人消費支出デフレーターに先行して動く傾向が見られます。

ポイント② 7-9月期は3%台の経済成長か

9月4日発表の8月のISM製造業景況感指数、6日発表のISM非製造業景況感指数はそれぞれ前月から反発しました。他指標も考え合わせると、7-9月期の実質GDP（国内総生産）は前期比年率換算値（1年当たりの伸び率に換算したもの）で3%台と、4-6月期の4.2%を下回るものの、堅調な成長が予想されます。

経済成長を受けて雇用情勢も堅調です。9月7日発表の8月の米雇用統計によれば、失業率は7月と同じく3.9%と低水準を維持する一方、非農業部門雇用者数は前月比+20.1万人と、2ヵ月振りに月間20万人増を上回りました。

ポイント③ 中立水準以上の利上げの有無が注目点

2%インフレ目標が概ね実現され、足元の景気、雇用が堅調なことから9月25、26日開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）での利上げは、ほぼ確実でしょう。さらに年内もう一度の利上げの公算も大きいようです。

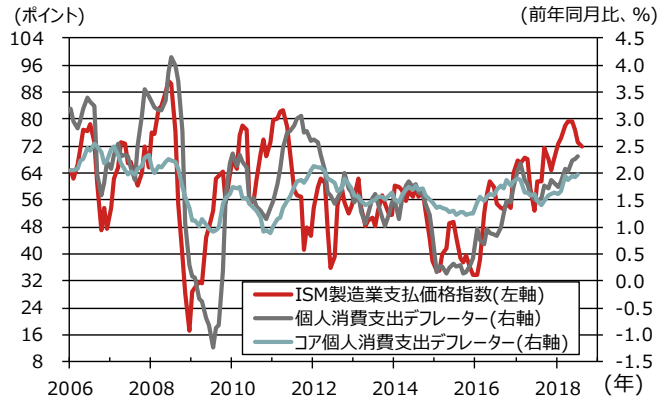
市場の関心は、どこまで利上げが続くかという点に移ってきているようです。FOMCで示される参加者の2019、20年の政策金利の予想中央値が、2.5~3.0%程度と見られる中立水準を大きく上回るのかという点が注目されます。

重要 イベント

9月12日	米生産者物価指数(8月)、米ベージュブック(地区連銀経済報告)
9月13日	米消費者物価指数(8月)
9月14日	米小売売上高、鋳工業生産指数(8月)

図1：米国個人消費支出デフレーターと支払価格指数

期間：2006年1月～2018年8月、月次



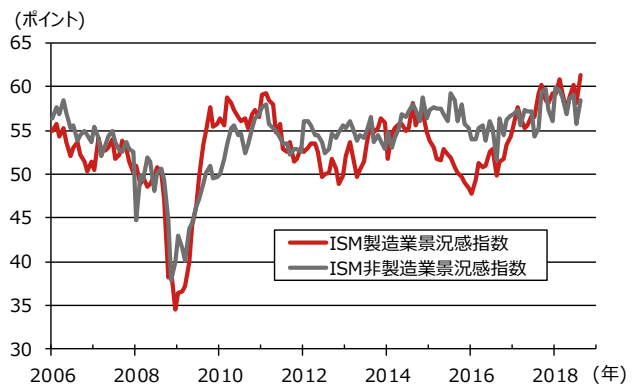
(注)個人消費支出デフレーターは2018年7月まで。

(注)コア個人消費支出デフレーターは、エネルギー、食料品を除く。

(出所)Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米国ISM景況感指数

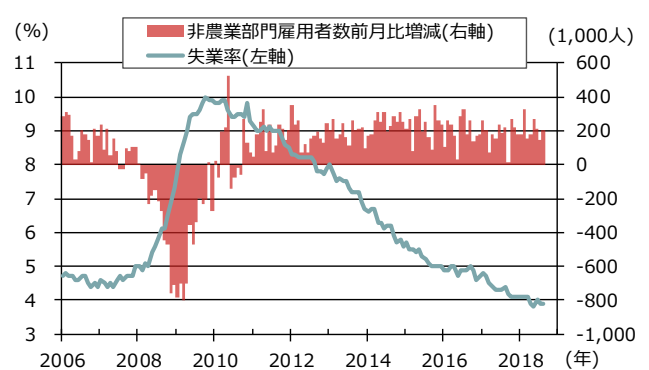
期間：2006年1月～2018年8月、月次



(出所)Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図3：米国失業率と非農業部門雇用者数

期間：2006年1月～2018年8月、月次



(出所)Bloombergより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。